おじゃましまーす

青春再び　いちい野ギター愛好会

いちい野ギター愛好会のメンバー。左から松田毅さん、岩城正博さん、木村実希さん、松田由美子さん＝いずれも坂井市春江東コミュニティセンターで

防音室での練習風景

毎週水曜日、坂井市春江東コミュニティセンターの防音室を練習の場にして、定年後のセカンドライフを楽しんでいるグループがある。フォークギターが中心のバンドで、結成7年の「いちい野ギター愛好会」だ。代表の松田毅(たけし)さんは、「定年後に音楽を始めるというのは世間的にはよくある話だが、実際自分が始めてみると新鮮。仲間との出会いとステージに立って演奏する達成感は何物にも代えがたい」と話している。

メンバーはリードギター、ベースギターを担当する松田さんのほか、サイドギターの岩城正博(ただひろ)さん、ボーカルとパーカッションの松田由美子さん、キーボードの木村実希さん。他にキーボード担当で女性が1人在籍している。岩城さんは松田さんと定年後の再就職先で出会い、誘われて参加した。「高校時代に自己流で楽しんでいたギターに再び火が付き、新しいギターを購入した」と意欲満々。松田さんは、「長年ギターを楽しんできたが、このグループで初めて"人に聞かせるバンド"が実現できて夢がかなった」と満足そう。洋楽も好きという妻の由美子さんは、変化にとんだ選曲の楽しさを満喫。「自宅で練習に熱が入ってくるとコミセンの防音室を借りに来る」と笑いながら話してくれた。最年少、30代の木村さんは参加3年目。通常の伴奏譜に独自のアレンジを加えて演奏に華やかさを添えている。元々クラシックが専門なので、演奏は譜面通りなのが当たり前だった木村さん。最初は戸惑ったそうだが「どう弾こうか考えながらの演奏は新鮮で面白い」と世代を超えて参加したバンド活動が楽しそうだ。

コロナ禍前には年に10回程度、老人会やサロンなどでボランティア演奏会を行っていた。夢や希望に満ちていた時代の音楽は、一瞬で気持ちをそのころに戻してくれるものだ。青春時代を思い出して聴いてもらい、一緒に口ずさむと笑顔や癒やしの輪が広がる。元気になってもらえたという実感は、自分たちのやりがいにもつながるそうだ。一日も早くコロナが収束して、演奏できる場が再び戻ることを願って、毎週練習に励んでいる。

ご希望があれば出張コンサートいたします

1970年代のフォークソングを中心に、「青い山脈」「高校三年生」「憧れのハワイ航路」といった懐メロも含めて演奏します。演奏を聴いたり、一緒に歌ったりして楽しいひとときを過ごしませんか。どうぞお気軽にお声掛けください。
☎090-2091-6362（松田毅）

絵手紙集を自費出版
自分史として宝物に　あわら市　立田由加里さん

「絵手紙集まり子さんへ」の1ページ。絵に合う切手が貼られている

以前取材でお世話になった人から「すてきな絵手紙集を作った人がいる」と、一冊の本を頂いた。ページをめくると、エッセイを読んでいるような気持ちになる。絵や言葉の温かさに心ひかれ、あわら市在住の作者、立田由加里さん(58)を訪ねた。

◆◆ ‥･‥･‥･‥･‥･‥･ ◆◆

「絵手紙集　まり子さんへ」は、立田さんが40代の頃、石川県在住の山仲間・小林まり子さんに宛てて描いた絵手紙250通余りの中から厳選した77通を1冊にまとめたもの。山の風景や花などの絵とともに、さりげない日常の出来事が心地良いテンポでつづられている。

小林さんとは、立田さんが白山で一人、絵を描いていた時に話し掛けられたのがきっかけで意気投合。一緒に登山をし、会わない時は当時まだスマートフォンを持っていなかったこともあり、絵手紙を送り合った。

絵手紙集を出すきっかけは、5年前に病で夫を亡くしたことが大きい。夫がもういないということを受け入れられずに、人に言えないほど辛い思いを抱え過ごした。悲しみや不安、大きな喪失感が時間の経過とともに少しだけ和らいできた頃、小林さんに誘われて、富士写ケ岳(石川県)に登った。我慢していた気持ちが、ふと涙と一緒にあふれ出し「もう我慢しなくていい」と感じた。

絵手紙は、友人らから「もらうと癒やされる」と言われ、うれしく感じていた。小林さんが大切に保管してくれていた絵手紙を見返す機会があり、そこに描かれている日々が自分にとってかけがえのない宝物だと気付いた。手元に残しておきたいと、昨年、絵手紙集30冊を自費出版。友人にプレゼントもした。

「絵手紙集は自分史のようなもの。見ると夫も両親も生きていて、自分もまだ若く輝いていた毎日を鮮明に思い出す」。快く山に送り出してくれた夫や、自分が生かされていることへの感謝、当たり前の日常のありがたみを、今改めて感じている。

プレゼント

絵手紙集(上)と笑顔の立田さん(左)

験担ぎグルメで応援 がんばれ受験生！

いよいよ受験シーズン突入。新北陸トンネルでの難所区間を突破した石を、難関突破を願って名付けたお守りの「突破石(とっぱせき)」や絶対に転ばないという安定感のある「合格だるま」など、さまざまな験担ぎグッズが話題に上っている。グッズも気になるが、食事でも受験生を応援したい。「勝ちを呼び込む」として、誰でも知っている験担ぎグルメといえば、やっぱりかつ丼だ。そこで知る人ぞ知る人気のかつ丼を紹介しよう。

福井のかつ丼といえばソースかつ丼が定番だが、卵とじかつ丼の優しい味わいも侮れない。紹介するのは、ソースと卵、両方の魅力を併せ持った逸品。秘伝のソースで煮込んだ肉厚の豚かつを、卵でふんわりととじた卵ソース味のかつ丼「名物かつ丼」(1,078円)だ。提供しているのは、そばの名店として知られ、2021年のミシュランガイドにも掲載された実力店、福井市文京7丁目の「蕎麦(そば)やすたけ」。素材選びからこだわり、毎朝、ひきたてのそば粉を手打ちする十割そばは食通をうならせる。週末には席待ちの行列ができるほどの人気店だが、このかつ丼を目当てに足を運ぶ客も多いのだという。

46年前、やすたけの創業と同時に誕生したこのかつ丼は、ソースのほのかな酸味と甘辛しょうゆ味の卵が見事に絡んで、斬新ながら懐かしさも感じる味わいが魅力。「一度食べたら、次回も必ず注文してくださいます」とスタッフ。リピート率はほぼ100%と言い切る自慢の逸品には小ぶりなミニ丼(605円)もあり、そばと一緒に楽しめるのもうれしい。

開店当初から半世紀近く近隣の働き盛りの若者や常連客の胃袋を魅了してきたこのかつ丼には、親子二代にわたるファンも多い。店は二代目にのれんが引き継がれ、店舗も新しくなったが「開店当時からのファンがいる以上、味を変えるわけにはいかない」と、秘伝の味を守り続けている。

蕎麦やすたけ
住 福井市文京7-9-35
☎0776-26-7281
営 昼　午前11時～午後3時30分
　 夜　午後5時～9時30分
　（ラストオーダーは昼夜ともに閉店30分前）
休 水曜日（祝日は営業）、火曜日夜の部（祝日前は営業）
P 20台
※ホームページ、インスタグラムで情報発信中

おろし・塩・ざる3種のそばを味わう「三点盛り」は店一番の人気メニュー

国産そば粉と水だけで打つ
十割そば専門店　福井市「そば亭 鈴木」

清水地区の木造の大鳥居で有名な賀茂神社近くに、県内のみならず全国のそば通をうならせてきた名店がある。コロナ禍前には飛行機を使ってはるばる訪れる客もいたという人気店だ。

店主の鈴木光男さん(72)が毎朝丹精するのは、国産そば粉と水だけで打つ十割そば。幼少期は偏食で、食事や健康には無頓着だったという鈴木さん。成人してからある健康法に出合い、健康を第一に考えるようになった。定年退職後そば店を開業したのは、食物繊維も多く栄養価の高いそば、それもそば粉100%の十割そばを出すことで「自分だけでなく、周りの人も健康になってほしい」との思いからだった。

人気はおろし・塩・ざるの3種類のそばが一度に味わえる「三点盛り」(1,500円=写真①)。「お客さんにベストの状態で食べてほしい」と、提供のタイミングにまで気づかうそばは、みずみずしく艶やかな太い平打ちの麺が特徴。「程よい食感と、何ともいえないそばのうまみと香りが一番伝わる」との鈴木さんの言葉通り、かむほどにそばの味と香りが口いっぱいに広がる。塩そばのつゆは、かどのないまろやかな塩味に大根おろしの辛みが溶けだす。大根のしぼり汁とおろしを混ぜて仕立てるおろしそばのつゆは、客一人一人に辛さの好みを聞きだし、調整する。

食後には鈴木さん手作りの黒蜜が載った「そばがきくろみつだんご」(450円=写真②)がお薦め。口に入れた瞬間にそばがきがとろけ、軽い食感と濃厚な黒蜜のおいしさから、するすると食べられる。

築100年はたつという古民家を利用した広い店内には、趣のある調度品が置かれ、縁側を配した畳敷きの座敷からは整えられた庭が見える。こだわりを持ちながらも、決して気難しい店ではない。そばの味はもちろん、店主鈴木さんの人思いで温かい気さくな人柄が、店の人気のゆえんだろう。

出来立て熱々で提供される「そばがきくろみつだんご」。トロトロ食感を楽しんで

十割蕎麦専門店
そば亭 鈴木
住 福井市大森町8-20
☎ 0776-98-8226
営 午前11時～午後6時
休 月・火曜日
（不定休あり・訪問の際は事前に電話で確認を）
P 8台 ※カーナビでお越しの場合は目的地を住所で設定してください

かわいく香る 動物デザインのアロマスティック

芳香液の入った小瓶に数本指してあるだけで、良い香りが漂い、おしゃれなインテリアにもなるアロマスティック。棒状の形が一般的だが、動物をデザインしたかわいいアロマスティックが越前市で作られている。

手掛けているのは「水野シール印刷」。創業50年余りの印刷会社で、元々企業向けの商品タグやシールなどを主力商品としている。近年、個人向け商品や小ロットの商品にも力を入れていきたいとアイデアを模索してきた。動物の形をデザインした「越前杉のアロマスティック」もその一つだ。小ロットの印刷物のカットにも対応するため導入したレーザーカッターを使用し、オリジナルのデザインで木材をカット。地元産の材料を使いたいと、県産杉材を使用している。

デザインは猫と鳥の2種類。木そのものが持つぬくもりある質感に、柔らかい曲線でカットされたかわいいデザインがプラスされ、心が和む。

3年ほど前に開催されたイベントで一般客向けに披露したところ、「買いたい」という声が寄せられたため、インターネットで販売を開始。オンラインショップの「yahoo! ショッピング」「BASE」「minne」でそれぞれ購入でき、水野シール印刷のホームページから各サイトを見ることができる。価格は送料込みで1本650円。

好きなデザインでアロマスティックをオーダーメイドすることもできる。その他、オリジナルデザインの珪藻土コースターやアクリルスタンド、マスクケースの作成などもできるため、ノベルティや結婚披露宴のプチギフトを作りたいという人にぴったり。詳しくは問い合わせを。

越前杉のアロマスティック。長さは約15㌢

水野シール印刷 株式会社
住 越前市村国2-3-18
☎ 0778-22-2239
※ホームページ、インスタグラム、フェイスブックで情報発信中

プレゼント

※価格はすべて税込み

個人情報保護法 さんぽみちではお客さまに記入していただいた個人情報は、さんぽみちとお客さまの区域の販売店において適切に管理し、プレゼントのお届けなどに利用させていただきます。

おったか塾　参加者募集

筆文字アート教室

日時　2月19日(土)
　午前の部　午前10時30分～正午
　午後の部　午後1時～2時30分
場所　ハピリン2階の福福小屋

参加費 1,300円(筆ペン、のり、はさみ持参)
対　象 小学4年生以上(小学生は保護者同伴)
定　員 各部15人(先着順)
講　師 川野千鶴さん(筆文字作家)

文字を書くことが苦手な人も、書き方のこつをつかむと筆文字アートが書けるようになります。越前和紙に書いた筆文字と桜の切り絵で春をイメージした作品を作ります。

主催：日刊県民福井・中日新聞社
共催：福井市観光物産館福福館
問い合わせ・申し込み先
日刊県民福井事業グループ＝☎0776-28-8618
(平日 午前10時～午後6時)

簡単♥おいしいクッキング～　チョコレートクランチ

【材料】
(直径約3㌢のミニカップ10～12個分)
コーンフレーク
※甘みが少なめのタイプ… 40㌘
割りチョコレート(ミルク)
……120㌘

【作り方】
①コーンフレークをビニール袋かジッパー付きの保存袋に入れ、上からめん棒などで押さえて砕く。好みで、粗さを調節する。
②割りチョコレートを包丁で細かく刻む。
③ボールに②を入れ、湯せんしながらゴムベラで交ぜ、滑らかになるまで溶かす。
④溶かしたチョコレートに①のコーンフレークを加え、よく混ぜ合わせる。
⑤スプーンなどを使い、アルミカップに④を詰める。
⑥冷蔵庫で冷やして固まれば出来上がり！

好みで、チョコレートが固まる前に、上にナッツ類などを載せてもOK！

読者からのお便りコーナー

お題は「プレゼント」

次女が帰省するたびに、顔そりのプレゼント。気持ちいいです。
(越前市 80代)

敬老の日に、ひ孫の写真と手形の便り。コロナ禍で会えないので感激しました！　(越前市 70代)

70歳の誕生日に、娘からシンビジュームとお嫁さんから観葉植物をもらいました。以前はバッグや着る物をもらっていましたが「好きな花がいい」と言ったのを覚えてくれていて、うれしく思っています。(福井市 70代)

手作り品のお返しに、庭で咲いた花のブーケをもらいました。
(福井市 50代)

母が死去して5年になります。私への誕生日プレゼントは、いつもカニでした。カニの季節になると「もっと親孝行しておけばよかったのに」と思います。　(大野市 60代)

勤めていた会社には若い人が多く、出産のお祝いとして手編みの白色と黄色の靴下を、かわいい箱に入れてプレゼントしていました。大変喜んでいただきました。　(越前市 70代)

子どもの頃、誕生日の朝起きたら、ウサギの縫いぐるみが隣で寝ていました。それまでプレゼントの習慣がなかったわが家。とてもうれしくて、名前を付けて今でもかわいがっています。　(鯖江市 50代)

コーヒーと辛い物が好きな僕の誕生日には、毎年家族から「誕生日おめでとう」メールとコーヒー豆と辛いあられをプレゼントしてもらっています。親父思いの優しい息子に感謝感激です♪　(越前町 50代)

今は成人した長男ですが、小学生の頃、母の日に花屋さんで花束を買ってくれました。とてもうれしかったのを思い出します。ドライフラワーにして今も玄関に飾っています。
(勝山市 50代)

最近は、高価な物より手作りの物が温かみを感じてうれしい。手作りのケーキやパンなど、感動して頂きます。　(勝山市 50代)

50歳の誕生日に娘2人と店に行ったら、突然ハッピーバースデーのケーキが私のところにやってきました。サプライズ慣れしていない年代なのでびっくりしたけれど、うれしかったです。　(福井市 50代)

もらってうれしかったプレゼントはホームベーカリーです。昨年のクリスマスにもらって、ベーコンパンやチョコパン、マーブルパン、レーズンパンに挑戦しました。　(大野市 30代)

孫に便乗して、クリスマスツリーの下に私が置いたプレゼントリクエストの手紙。それを見た娘が、クリスマス、私にまでプレゼントを置いてくれました。孫が「おばあちゃんにもプレゼント来たよ」って喜んでくれました。　(福井市 50代)

10歳の誕生日に、星の命名権が当たりました。たばこメーカーの懸賞に父が応募して当たったそうです。「YOKO」で登録しました。天体望遠鏡でどうにか見えている気がしています。いつも「YOKO」星が輝いていることに、夢を託しています。
(永平寺町 10代)

昨年12月も子どもの元にはサンタがやって来て、すてきなプレゼントをくれました。わくわくした顔でプレゼントを開けているかわいい姿を見るのが、母の私へのプレゼントです。　(大野市 30代)

もらってうれしかったプレゼントは、子どもたちが保育園児の頃にくれた絵と、つたない文字で書かれた手紙ですね。　(鯖江市 60代)

最近洋裁にはまり、手作りの服を孫にプレゼントしまくってますが、なかなか着てもらえない(涙)。好みもあるし、市販の服はデザインがかわいいですからね。　(福井市 60代)

コロナの影響で、夫とお正月に会えなかったので、手紙を添えて秘密で年賀状を送りました。(あわら市 20代)

投稿募集

投稿してくださった皆さま、ありがとうございました。次回のテーマは「先生との思い出」です。エピソードを添えて送ってください。

※内容を変えない範囲で手直しすることがあります。ご了承ください。

今月の 読者アンケートプレゼント

紙面をより良くしていくためにアンケートにご協力ください。当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。

応募方法
①希望のプレゼント　②住所、氏名、年齢、性別、電話番号、職業　③現在購読の新聞名　④地元のお薦めスポット　⑤読者からのお便りコーナー、テーマ「先生との思い出」への投稿を記入の上、下記のいずれかの方法でお送りください。

■はがき　[宛て先]〒910-0005 福井市大手3-2-13 中日新聞分室内「さんぽみち嶺北2月号プレゼント」係
■メール　osanpo@fukuikoho-c.co.jp
■LINE(ライン)　さんぽみち公式アカウント　ID：@059fzwww
↑メールはこちらから
↑LINEのお友だち登録はこちらから
お友だち募集中！
メール、LINEの場合は、件名または本文初めに「さんぽみち 嶺北2月号プレゼント係」と入力してください

A 「ちひろの生まれた家」記念館 入館ペアご招待券(お2人さま入館料無料) 3人
B 福井市水道記念館 福井市企業局販売「ふくいおもてな水」1箱(350㎖ペットボトル24本入り) 1人
C 立田由加里さん「絵手紙集まり子さんへ」 3人
D 水野シール印刷 株式会社 越前杉のアロマスティック(ねこ・とり 各1本ずつの2本セット) 5人

締め切りは2月22日(火)必着
※当選者の発表は、プレゼントのお届けをもって代えさせていただきます。

スタッフ日記

昨冬の終わり、わが家の灯油ファンヒーターが壊れた。部屋が狭いため買い替えを見合わせたことから、今冬はすっかりエアコンに頼る生活だ。ファンヒーターの即効性には及ばないが、タイマー機能を使って、起床時や帰宅時に部屋を温めておくこともできて便利。それでも北陸の真冬の寒さには、やや物足りなく感じる。足湯をしたり、軽く運動したりして身体を温めることもあるが、寒がりの私は「新しいストーブを買おうか」「こたつが欲しい」と、むくむくと暖房器具に対する物欲が湧いてきて、家族に「場所をとるから不要！」とたしなめられている。春の日差しが待ち遠しい。